

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

| | |
|---------------------------------------|---|
| 名称：ぶどうの実平間園 | 種別：認可保育園 |
| 代表者氏名：飯田真由美 | 定員（利用人数）： 30名(30名) |
| 所在地：〒211-0015 川崎市中原区北谷町693-10 | |
| TEL：044-540-3355 | ホームページ： https://budou-ki.co.jp |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日 平成20年（2008年）4月1日 認可年月日2016年4月1日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 ぶどうの木 | |
| 職員数 | 常勤職員： 11名 非常勤職員 6名 |
| 専門職員 | （専門職の名称）園長 1名 保育士 11名 |
| | 栄養士 2名 調理員 1名 |
| | 保育補助 2名 |
| 施設・設備の概要 | （居室数） 2室 （設備等） 調理室、事務室兼医務室、乳幼児トイシ、玄関ホール、テラス |

③理念・基本方針

『シアワセな未来を創るひとを育てる』
ひととひとが豊かにつながり合うという肥沃な土壌の中で、ひとり一人が大切にされ、成長の根を育まれ、希望の種を宿すこととなります。
こうした土壌のなかから、子どもたちは、やがて自ら希望を切り拓き、ひとと共生し、社会に貢献する“ひと”として、芽吹いていうのだと私たちは信じています。
保育の3本柱「勇気づけ」「裁かない」「見守る」を軸に「一人ひとりを大切にする子ども主体の保育」を実践しています。

④施設・事業所の特徴的な取組

子どもひとり一人の発達・興味関心を大切に「ごちゃドバ」保育を実践しています。
年齢別カリキュラムを作成した上で、生活や遊びは子どもが自ら選択でき、それを尊重できるようスタッフ間で連携して保育を創っています。
又、園庭がない分、保育活動に合わせて様々な近隣の公園に行くことで足腰も鍛えられていて、入園してから体力がついたと保護者の方々からも多くご意見を頂いています。
保育室はワンフロアで全体が見渡せる環境であり、子どもの行き来も制限していないので、全スタッフが一人ひとりの子どもを把握でき柔軟に対応しています。
子ども同士も、大家族のようにお世話したりされたり、教えたりマネして覚えたり、年齢関係なく好きな遊びを一緒に遊んだり、微笑ましい関係性を築いています。
職員は、子どもの発達と興味関心を広げる環境の準備と、子どもの自らの育つ力を信じ、手を出し過ぎない温かい見守りを大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|--------|---|
| 評価実施期間 | 2022年 8月 3日（契約日） ～ 2023年 3月 30日（評価結果確定日） |
|--------|---|

| | |
|---------------|--------------|
| 受審回数（前回の受審時期） | 2 回（ 2018年度） |
|---------------|--------------|

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもの自主性を尊重した保育を実践しています

子ども自身が興味のある遊び、好きな遊びを選んだり、友だちと遊びを工夫して楽しんだりできる環境を整えています。保育士は、発達と共に子どもの状況に応じてより良い環境を作るよう常に検討し、話し合っています。様々なコーナー保育を実践して、子どもが主体性を発揮できるよう援助しています。4・5歳児は、海賊や忍者などのテーマを持ったプロジェクト保育に取組み、5歳児は法人6園の年長児と「つながり隊」を作り、「街をつくろう」「ぶどうレインボータウン」や社会貢献プロジェクトで自分らしさを発揮しながら友だちと一つのことをやり遂げるなどの活動をしています。また、園は異年齢保育を行い、年上の子どもへの憧れや年下の子どもへのいたわりなど、日々の保育の中で子ども自身が将来の見通しを持てる取組を行っています。

◆保育士は、子どもが、自分の気持ちを言葉で伝え、互いの気持ちを尊重出来るよう援助しています

園は、子どもの気持ちを大切に尊重した保育をするように努めています。乳児は、非言語の表情や仕草から気持ちを汲み取るよう援助しています。基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもがしたい、したくないとい気持ちを汲んで、無理強いせず、待つ姿勢で見守っています。幼児は、自分の気持ちを言葉にする機会を多く持ち、子どもたちは、輪になって座り、一人ずつ楽しかったことなどを発表します。また、月曜日の朝の会では、週案を提示して、「今週、みんなと一緒にやりたいこと」を伝え、子どもたちも自分のしたいことを発言しながら共に保育活動を考えています。更に、園では4歳児から「相互の理解」「問題の解決」「怒りの扱い」などの学びの機会を設け、互いを尊重し、気持ちについて対話する時間を沢山作る「セカンドステップ」を行っています。

◆職員の保育の向上に向けて取り組んでいます

職員は、法人の自己目標設定シートで「現在の自分」「1年後の自分」を記載し、園長と目標設定の面談、その後中期、年間の振り返りと3度の面談を行っています。また、園独自の目標設定シートで月ごとの目標設定と振り返りを行い、毎月ヒヤリングを行うよう努めています。更に、園長は、保育への参加や保育室の観察、保育日誌のチェックなどで、保育の質の現状について日常的に評価・分析を行っています。気になる時は、その都度指導するほか、職員全員で共有したほうが良い内容は、会議の議題として取り上げるなど保育の質の向上にむけた取組を行っています。

◆実習生の受け入れが期待されます

法人は、「実習生受け入れとその対応」で「保育園が、地域に開かれた施設となるためには実習生の受け入れが不可欠である」という基本姿勢を明示しています。園は、認可外保育園の時に、実習生受け入れの実績はありますが、2016年度の認可後の6年間はコロナ禍という事情もあり、受け入れ体制はあったものの需要が無かったとして実績はありません。今後は、保育に関わる専門職の研修・育成への協力として学校へ声をかけるなど受け入れ姿勢をさらに示すことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回は今後の園の運営についての見直しや保育の質の向上のため、第3者評価を受審

させていただきました。ぶどうの実平間園の保護者みなさまには、アンケートにご協力いただき、大変感謝申し上げます。

保育理念を柱に、子ども主体の保育をしてきました。今回、年齢別ではない異年齢保育（ごちゃドバ）の中で、一人ひとりの子どもたちが、生き生きと園生活を楽しんでいると評価していただき、私たちが取り組んできた保育について自信につながりました。また、今後の取り組み課題の「実習生の受け入れ」についても、「是非ぶどうの保育を今後保育に携わる学生たちに伝えてほしい」という思いからだと聞いて大変光栄に感じています。

今後も、一人ひとりの子どもたちに寄り添いながら、集団の中でかかわり合いながら育つ生きる力も育み、更なる保育の質の向上に努めてまいります。これからも、保護者のみなさまが安心して預けられ、子どもたちが健やかに成長し、地域に愛される保育園になるために、幅広い世代間との交流や情報交換等を積極的に行い、地域に根ざした園運営をしていきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり